広報 伊達 142

発行日　令和４年７月15日
発行者　伊達地区小学校長会
　　会長　遠藤和宏
編　集　　同　　広報部

《巻頭言》

校長室に引きこもらない校長に

伊達地区小学校長会長
遠　藤　和　宏
（桑折町立醸芳小学校長）

校長室は決断の前の瞑想の場

校長には「校長室」という立派な部屋が与えられ、そこで執務を行ったり、来客の接待をしたりする。ちなみに「醸芳小の校長室は広くていいね」とよく言われる。確かに、ソファーは２セット、12人が会議ができるテーブルもあり、普通教室ほど広い。東向きのため冬は寒いが、居心地は悪いことはない。『校長室はなぜ広い』（森隆夫著）を読むと、「校長室は決断の前の瞑想の場」とある。なるほど、じっくり物事を考え判断するには、もってこいの部屋である。

教室を回って歩くよ

しかし、私はこの部屋はあまり好きではない。職員室から離れていて、向こうから聞こえる笑い声が羨ましい。校長室から校庭は全く見えないし、ちょっとさびしい気分になる。ただ、校長室前を帰る子ども達が「校長先生、さようなら！」と手を振ってくれるのはうれしい。

子どもたちには「校長先生は校長室がさみしいので、毎日教室を回って歩くよ」と言ってある。教室内にもお邪魔して、時々学習の邪魔をしてしまうこともあるが、教室訪問は楽しい。「先生方、頑張ってるなあ」と感じながら、面白い活動があればすぐに写真を撮り、ＨＰにアップする。教室訪問は、毎日更新しているＨＰのネタ探しになる。学級の子どもたちの様子もわかる。「字が上手だね」とほめてあげたり、「教科書を開こう」と声をかけたり。「校長先生、見て！」と作品を自慢げに見せてくる姿は本当にかわいい。

時々担任から「ＨＥＬＰ」の声がかかることがある。急いで現場に駆けつけ、子どもと向き合う。言うことを聞いてくれないこともあるが、そんな姿も嫌ではない。

昨年度、花いっぱいコンクールで県知事賞を受賞したほど、玄関前にはプランターがいっぱい。水くれをしながら、校庭の子どもたちに目をやる。「一輪車が好きなんだ」「あの子はよく１年生と遊んでくれている」と多くの発見がある。

１年生が下校するときは、時々顔を出す。「さようなら！」「また明日ね！」と手を振る。明日も笑顔で登校してくれることを祈って。

今年度、書写の授業を持たせてもらった。これは補充教員がいなかったための対策であった。子どもの前で話す機会が少ない校長としては、授業は楽しい。子どもたちが笑顔になったときの満足感、うまくいかないときのもどかしさも含めて楽しい。

情報は足で稼ぐ

とはいえ、職員会議の文書を作成したり、週案に朱書きを入れたり、山のような受付文書に印を押したり、校長会の調査や原稿書きをしたりと、仕事はたくさんあるのだが、校長室に引きこもる校長にはならないと誓う。先生方や子どもたちの情報は、足で稼ぐのが鉄則である。校長室で待っていては何も入ってこない。自分の目で確かめること、肌で感じることが大事なのだ。

さいごに

校長室には歴代校長の写真がずらりと並んでいる。ふと右を向くと、桑折町教育長さん、前Ｔ校長先生がじっと私を見つめている。頑張ります！

《　提　言　》

学校の力を発揮する

桑折町教育委員会教育長　会　田　智　康

教育格差がある社会の中で、学校の力が問われている。学校は力を発揮できるのか？そのために必要なことは何か？

欧米の「効果のある学校」研究

例えば、イギリスの研究者は、人種や階層による学力格差を克服している学校の特徴・要因を次のように整理した。(1997)

① 校長のリーダーシップ
② ビジョンと目標の共有
③ 学習を促進する環境
④ 学習と教授への専心
⑤ 目的意識に富んだ教え方
⑥ 子どもたちへの高い期待
⑦ 動機づけにつながる積極的評価
⑧ 学習の進歩のモニタリング
⑨ 生徒の権利と責任の尊重
⑩ 家庭との良好な関係づくり
⑪ 学び続ける組織

「力のある学校」モデル

大阪大学の研究室では、「効果のある学校」研究を踏まえつつ、学力の階層間格差を超える学校改善モデルを次のように作成した。(2009)

① 気持ちのそろった教職員集団
② 戦略的で柔軟な学校運営
③ 豊かなつながりを生み出す生徒指導
④ すべての子どもの学びを支える学習指導
⑤ ともに育つ地域・校種間連携
⑥ 双方向的な家庭とのかかわり
⑦ 安心して学べる学校環境
⑧ 前向きで活動的な学校文化

「学力格差への処方箋」

お茶の水女子大学の研究グループは、全国学力・学習状況調査結果の分析等を通して、学力格差の克服に向けた提言をまとめた。(2021)

① 家庭において基本的生活習慣を整えるとともに、復習や宿題・自学をするなどの家庭学習習慣を確立する。学校はそのためのサポートを行う。
② 家庭や学校の取組によって「非認知的スキル」(自己肯定感や「やり抜く力」)を向上させる。
③ 家庭が地域や学校とつながるとともに、さまざまなリソースにアクセスできるよう支援する。
④ 言語活動では「アウトプットさせる」「教科を超える」「学び合う」。
⑤ 個に応じたきめ細かい指導を実質化し、基礎･基本をすべての子どもに保障する「インクルーシブな学校」をめざす。
⑥ カリキュラム･マネジメントを充実させる。
⑦ 実践的な教員研修や校内研究、実践共有に「学校全体として」取り組む。
⑧ 管理職は明確なビジョンにもとづきリーダーシップを発揮するとともに、教師の協働をサポートする。
⑨ 地域による学校支援を充実させるとともに、学校・子どもが地域に貢献する姿勢をもつ。
⑩ 行政は地域の実情に応じて学校や家庭に対して適切なサポートを行う。

学校は万能ではないが、もちろん無力でもない。正しい方向での努力を続ければ、教育格差という社会の課題に対しても、十分に力を発揮することができる。そのためには、これらの研究で示された学校改善のポイントについて、関係者が自らの立場でしっかりと受け止め、実現に向けた取組を地道に積み重ねていくことが必要である。

信用と信頼

伊達市立伊達東小学校長　笹　川　光　威

信頼と信用とは、何が異なるのでしょうか。私なりの思いです。

〇〇信用金庫はありますが、〇〇信頼金庫はありません。この辺りから考えるに、信用とは、これまでの実績を評価し「信用」することで、信頼は、これまでの実績を問わず無条件に「信頼」する事のように思えます。無条件に信頼される機会において、その信頼に全力で応えることは、実績となり、以降、他者からの信用を得る判断材料となるのでしょう。当たり前ではありますが、信頼を違えたとき、瞬時に信用も揺らぐ事となるのです。伊達東小学校に赴任し約２ヶ月となりました。保護者や地域から寄せられる大きな信頼を実感する毎日です。児童の安全・安心の確保、資質・能力の向上等に学校一丸となって取り組み、地域と共に発展する学校となるよう力を尽くします。そして、一つ一つの信頼に誠意を持って応えて参りたいと思います。

出会いに感謝

伊達市立粟野小学校長　佐　藤　みゆき

着任早々、「粟野は、いいところですよ。」といろいろな方からお声かけいただきました。素直でやさしい57名の子どもたち、協力的な保護者や地域の方々、前向きで誠実な教職員と出会えたことをとても有り難く思います。これは歴代の校長先生をはじめ教職員の方々が、信頼というバトンをしっかりと繋いでくださってきた賜であることを考えると、そのバトンの重みに身が引き締まる思いにもなります。

これまで多くの方にお世話になって参りました。この伊達地区では、管理職のイロハからあたたかくご指導いただいてきました。そのおかげで今の自分があることを、着任からのこの２ヶ月で強く実感しているところです。恵まれた出会いに感謝し、大切なバトンをしっかりと受け継ぎ、「この学校でよかった。」という声が聞こえる学校経営をして参りたいと思います。諸先輩の校長先生方には、これからも多くのご指導を賜りたく存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

「三気」を培う

伊達市立堰本小学校長　五十嵐　　修

「元気・本気・根気」。これは堰本小学校校舎前に立つ三本の松が表す「気」です。三本の松は「三気の松」として、堰本小学校のシンボルとなっています。この「三気」を子どもたちに身に付けさせるべく、毎日励ましています。

本校勤務を機に、三気について改めて学び直し、実践していこうと考えました。まず根気について。一つのことを根気強く続けていくことは、苦手分野の一つです。登校時や休み時間などの子どもたちの見守りを毎日行おうと思いました。次に本気について。先生方や子どもたちが本気で取り組んでいる授業や活動をできるだけたくさん見ていこうと思いました。そして元気について。堰本小の子どもたちの元気なあいさつには、いつも感心させられています。子どもたちに負けない元気なあいさつを率先垂範していくことにしました。

皆様からのご助言をいただきながら、伊達地区の子どもたちのために頑張ってまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

150周年の節目に着任する重み

伊達市立大田小学校長　鈴　木　　茂

明治５年に学制が発布され、同年９月、金原田村に典学義塾が開校しました。昭和47年、福島県教育委員会による創立100年認定に際し申請したところ、これが本校の創立と認められました。その後更に50年の伝統を築いてきた大田小学校は、今年度、創立150周年を迎えました。

図書室には、歴代校長のお姿が掲示され、お一人お一人と目を合わせるたびに校長としての責任を重く感じています。

150年と口にするのは簡単ですが、この間、戦争、日本国憲法施行、町村合併、児童数減少、学校統廃合など多くの危機や社会変化を乗り越え、時代に沿う教育改革を進めてきました。令和の日本型教育の構築が求められ、第７次福島県総合教育計画がスタートした今年度、新たな大田小学校の歴史をつくる旗振り役として私に何ができるか、気持ちを新たにしています。

伊達地区への勤務は、７年ぶりです。校長先生方のご指導ご助言をよろしくお願いいたします。

「心は一つ」

伊達市立小国小学校長　佐　藤　孝　宏

「一人の 100 歩より百人の１歩を」ある市町村の元教育長が口癖にしていた大好きな言葉です。一人の優秀教員だけで学校は成り立たない、組織を生かした学校経営をということです。

新学習指導要領では、家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携が求められています。本校は、全校児童 24 名の小さな学校です。だからこそ、児童も教職員も自然と協力する雰囲気があります。また、学校と保護者、地域の方との距離も近く、互いの顔が見える連携ができています。先輩校長先生が築き上げた素晴らしい伝統です。

この伝統を守りつつ、子どもたちに生きる力を育むために、全力で取り組まなければなりません。

とは言え、新任校長の私は責任の重さで不安と緊張でいっぱいです。そんな私の心の支えとなっているのが、校長会の合言葉「伊達は一つ」です。気軽に相談できる雰囲気に感謝しています。諸先輩方からご指導いただきながら、伊達の教育のために精進して参ります。お世話になります。

「賢者能士」を育成するために

桑折町立半田醸芳小学校長　五十嵐　洋　之

校長室に掲げられている「醸芳解」には、「醸芳」の語源として次のように記されています。「『醸』は酒をかもすこと。転じて物を熟成するに用い、『芳』は香りある花のことであるが、転じて賢者能士に用いられる。これを総合すると賢者能士を養成すること。あたかも米麹に和して酒を熟成するように、盛んに多くの人材を育成する。と解することができる。」

この「醸芳解」を目にするたびに、「先人が込めた願いを実現する学校経営になっているか。」と自問自答を繰り返しています。グローバル化・情報化・少子化・高齢化・国家間の対立・変異する感染症の流行等、社会の大きな変動にしなやかに対応し、自分のよさや可能性を伸ばし、力強く生き抜く「賢者能士」を教職員が一つになり、また、半田の豊かな教育資源を効果的に活用しながら育成していかなければならないと強く思う毎日です。伊達地区校長会の皆様、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

「新たな気持ちで」

桑折町立伊達崎小学校長　佐　藤　浩　哉

伊達地区での勤務は初めてですが、再任用校長として着任後スムーズに勤務することができているのは、伊達地区の校長先生方からの御助言のおかげと感謝しております。ありがとうございます。

本校は、去る３月 16 日深夜のいわゆる福島県沖地震による被災がありましたが、桑折町と町教委の計らいで、４年生と５年生が隣接する児童クラブの施設で授業を実施させていただいています。入学式から、ほぼ予定どおりの教育活動を推進することができていますが、特別教室が使用できないので、先生方は授業の準備や授業中に不便さを感じる時もあります。それでも子どもたちに身に付けてほしい力を育もうと様々な工夫を取り入れ、充実した教育活動を展開しています。子どもたちも先生方の姿勢から前向きに学校生活を楽しみ、学習に運動に一生懸命取り組んでいます。

教職員一丸となって、子どもたちの気持ちに寄り添いながら、能力の伸長と豊かな人間性を育む教育を推進します。どうぞよろしくお願いします。

編集後記

世の流れは時に荒く、しかも「予測困難」です。子どもたちに身に付けてほしい「生き抜く力」は、「今をどのように生き抜いていけばよいのか」「そのために今必要とされる資質や能力は何なのか、どうやってこれから身に付けていけばよいのか」という、今を生きる私たち自身への問いかけでもあるような気がしてなりません。こうした流れの中でもがき、時に流れに身を任せつつ、しなやかに振る舞っていけたら…と思う日々です。捉え方や考え方、価値観等が一つではないことから、まとまることの難しさはあるかもしれませんが、だからこそ、「多様性」となり、多角的な見方や考え方を生み、解決の糸口発見につながるのかもしれません。私たちは一人ではなく、多くの仲間と共に互いの経験を共有し合い、支え合うことができます。令和４年度を迎え、心強い船出となったことに心から喜びを感じております。どのような「(荒)波」がこようとも、「伊達は一つ」になって「伊達らしさ」をもって、「よい航海でしたね」と振り返ることができればと思います。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。(I.H.)